

R7.8.25(月) 第3回地域振興未来会議 用瀬町内視察

① ゆいの宿 古民家長谷川邸(屋住)

築90年の古民家を改装して造られた民宿。利用者の8割が外国から訪れた方。空間を活かしたワークショップなどを通じて賑わいの創出、地元の山で採れる香木の「クロモジ」から抽出したオイルの販売などを行っている。



② 山のまなび舎(屋住)

空き家となった民家を活用。地元で栽培した大豆を使っての味噌づくり、地元に伝わる伝統芸能「屋住の麒麟獅子舞」の紹介、春の山菜や秋の餅つき大会、大学生の宿泊など関係人口を増加させるためのさまざまな事業を展開している。



③リバー・トリップ・オートキャンプ場(赤波)

元中学校教員であるオーナーが、地元・用瀬町の活性化を願い、農地だった場所を整備し、2023年8月にオープンしたキャンプ場。全国的にも珍しいおう穴群のある赤波川沿いに位置し、バレルサウナや体験型アクティビティが楽しめ、子どもから大人まで満喫できる。用瀬 IC から近く、県外からも多くの利用がある。



④用瀬駅周辺(イエロービル、駅前ビル)

用瀬町の玄関口である、用瀬駅前にある2つのビル。
イエロービルは、空きビルを活用し用瀬駅前の活性化を目指す施設としてオープン。
現在は、1階に「カレー＆カフェ MARUKO(マルコ)」、2階に「ねじまき鳥靴工房」が営業中。
旧用瀬商工会館(2階建)は、イベントなどで利用されており、今年6月には「もちがせ鮎の市」が開催され、多くの人で賑わった。今後も活用方法を検討中。

